

須坂市ふれあい健康センター「湯っ蔵んど」  
今後のあり方アンケートの結果について

2024年12月20日  
須坂市

「湯っ蔵んど」は1997年に市民の健康と福祉の増進並びに観光振興を図るため、県内最大級の温泉施設として誕生し、健康・福祉・交流・観光・防災（指定避難所）など多面的な機能を有する施設です。

今年で27年が経過し、現在の指定管理期間終了後の2027年4月以降における施設のあり方について検討するなかで、市民の皆様や施設利用者を対象とした今後のあり方についてのアンケートを実施しましたのでその結果をお知らせします。

1 回答期間（実施期間）

2024年10月1日（火）から2024年11月8日（金）まで

2 アンケート依頼

全戸配布により依頼

3 回答方法

ながの電子申請及び書面（アンケート用紙）回答

※アンケート用紙は市役所情報コーナー、商業観光課、湯っ蔵んどで配布

4 回答数

(1) 全体：368件（ながの電子申請：267件/様式回答：101件）

(2) 内訳

ア 住所地別

単位：件

市内										市外	回答なし
須坂	日滝	豊洲	旭ヶ丘	日野	井上	高甫	仁礼	豊丘	計		
134	23	10	17	19	16	27	58	21	325	42	1

イ 年齢別

単位：件

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	回答なし
2	21	49	67	74	73	78	4

5 存廃の希望

(1) 存続希望：320件【回答数の87%】

(理由：主なもの)

- ・県内有数の規模を誇る温浴施設であり、須坂市内外から多くの利用者が訪れている。天候に関係なく、年間を通して幅広い世代が利用できる貴重な施設であると思います。
- ・仁礼地区には商業施設や飲食店が少ない。湯っ蔵んどは温泉施設であるが、飲食

店として利用することも多いので、ぜひ今後も存続してもらいたい。

- ・障がいのある方が温泉を楽しめる唯一の場所。福祉風呂だけでも残して欲しい。
- ・須坂市に2か所しかない温泉施設です。私は法事の時に使わせてもらったり、忘年会にもお願いした事が有ります。出来る限り存続して欲しいと思います。
- ・入浴以外にも大勢で集まる（法事・宴会等）ことができる施設であり、少しずつ改修しながらでも存続した方が良いと思う。大きなイベントの開催や災害時の避難所としても利用価値はあり、集客の工夫をし、残した方が良いと思う。

(2) 廃止希望：40件【回答数の11%】

(理由：主なもの)

- ・大規模改修に多額の費用をかけて、その後も維持管理運営に費用をかけ続けてまで交流の場を残す必要があると思えない。
- ・民間に売却したほうが集客につながる。
- ・利用者が見込めないのであれば廃止すべきと思う。
- ・温泉施設であれば、もっと小規模なものに建て替えもアリかと思います。
- ・すべての市民が利用しているわけではなく、黒字で利益がでていて、その資金で改修は構わないと思いますが、税金から捻出は間違いと思います。負の遺産を後世に残してはなりません。

(3) 回答なし：8件

## 6 主な意見・提案（自由記述）

### (1) 存続希望の方から

- ・このままでいてほしい。存続できなくなるくらいなら値上げしてほしいです。
- ・民間企業に完全に任せてしまった方がよい。話題のチョコザップなどを入れたり人気のサウナに力を入れたり、しっかりお金をかけて人を集まるためには、市の力では限界を感じる。
- ・外でもっと子供達が遊べるようにして欲しい。公園と呼べるような形になると、公園に遊びにきてそのまま入浴という流れができると思う。小さくても噴水があればベスト。
- ・コトリの湯のようなスペースがあっても良いのではないかと思う。須坂市民から集めた中古本や絵本を自由に読めるだけで嬉しいし、避難所となったときには子供たちの暇つぶしになる。
- ・室内で子どもたちが遊べるアスレチックなどの施設を作る。
- ・湯っ蔵んどを道の駅に改修してイオンモールに訪れる観光客を誘導し、市内観光案内や人気の果物をはじめとする地元農産物の販売を行う。
- ・宿泊施設が充実させるといいと思います。
- ・規模を縮小する。
- ・空きスペースの有効活用（コアキングスペース・会議室・個室利用など）。
- ・スポーツ施設を導入する（プール導入→小中学校プール授業実施）。
- ・避難施設としては大事だと思う。ハザードマップで問題なく、駐車場も広く、多目的の広場もあって収容力が高いはず。

### (2) 廃止希望の方から

- ・施設や土地の利用方法を制限して(広く市民の人が使える施設である条件にして)

民間企業に再開発してもらうのが良いと考えます。市としては土地の借地料を一定期間免除するなど支援してはどうか。

- ・温泉事業の赤字分を指定管理者の売上で賄う運営方法では、指定管理者が撤退した場合運営が成り立たなくなり現状でもすでに不安定な状況だと思う。今後、少子化が進む中で利用者も減少していくと思われるので改修費に多額の税金を投入するのは賢明ではないのではないか。一般企業に施設丸ごと売却できれば良いだろうが、おそらく収益の見込みのない物件を引き受ける企業は無いと思われる。税金を投入し続けると運営できない事業は終了を検討すべきと思う。
- ・そろそろ30年経つ時期で廃止して道の駅設置した方がよいです。
- ・須坂温泉にも公金が投入されていることを考えると、2つも温泉が必要かと考える。湯っ蔵んどを宿泊施設化して、須坂温泉を廃止する案もあるのではないかと。災害時の対応の為、一つは残すことに賛成です。
- ・少子高齢化が進み、今後須坂市の人口が減少することが分かっている。今の子供達の負担となる持続可能性のない施設は縮小するべきである。湯っ蔵んど跡地の利用については、市で所有するのではなく宅地にするか工業用地にするなど民間に所有させて利用することが好ましいと思う。
- ・そもそも近隣の長野市、小布施町、高山村に温泉施設があり、須坂にはもう一つ須坂温泉があります。それぞれの施設では集客に向けていろいろな施策を展開しており、そのような状況の中で来場者を増やし収益を確保していける「営業方針・具体的な改善策」がなければ、2018年以前の状況には簡単には戻らないはずです。追加での財政支援よりも営業停止・建物取り壊しを視野に検討するほうが、ズルズルと施設を存続させるよりトータルでの損失が少なくなると考えます。

## 7 アンケート結果を受けて

本アンケート結果とサウンディング型市場調査の結果をもとに、今後の施設のあり方等についてさらに検討を進める。